

第40回会長の時間 ロータリーにおける親睦と親睦活動

平成29年6月1日

5月28日に、パルセンター宇部で、2710地区ローターアクト次年度指導者研修会が開催されました。当クラブからは、芥川さんと古谷さんと私が出席しました。まず、私が次年度研修会の開会の挨拶をし、次年度 RAC 地区代表の川嶋君が地区ターゲットに掲げた「絆」についての説明があり、年間行事を発表しました。来年度は海外研修を行わず、被災地の石巻市に行って国内研修をする予定です。研修会のメインプログラムは、岩国中央 RC の藤中秀幸ガバナーエレクトがご講演をされました。次回の RYLA は、柳井 RC が引き受けられ、日帰り開催なので多くの人に集まって欲しいと述べられました。そして尾道 RC の鍛治川ガバナーノミニーも来賓として出席されました。

さて、6月は「ロータリー親睦活動月間」です。本日は、ロータリーの親睦と親睦活動についてお話しします。親睦と奉仕は、ロータリーの二本の柱といわれています。しかし、ロータリーは敢えて親睦と奉仕の解釈を、世間一般の人たちが考える解釈と異なる次元に置いています。この2つはロータリー独自の概念であり、これを正しく理解しない限り、ロータリー思想の原理に触れることは難しいと言われていています。Fellowship を「親睦」と訳したことにも問題があるのかも知れませんが、本来は「連帯感」とか「協調」と訳すべきかも知れません。「親睦」とはロータリークラブが、クラブとして存続していく上で欠かすことの出来ない必要条件で、ロータリアン1人1人の心が結合した状態を表す概念です。言い換えれば、“Fellowship”はロータリーの牽引力とも言えます。

ロータリー運動の実体を、見事に表した言葉として、「入って学び、出でて奉仕せよ」“Enter to learn, Go forth to serve”という言葉がありますが、これは1947-1948年、ケンドリック・ガーンジーRI会長のRIテーマです。

すなわち「例会場に入ったらロータリーを学びましょう、そして例会場を出たら奉仕をしましょう」といわれる所以です。世の中のあらゆる分野の有能な職業人が、週一回の例会に集い、例会の場で、職業上の発想の交換を通じて、分かち合いの精神による事業の永続性を学び、友情を深め、自己改善を図り、その結果として奉仕の心が育まれてきます。この例会における一連の活動のことを「親睦」と呼ぶのです。例会で高められた奉仕の心を持って、それぞれの家庭、職場、地域社会に帰り、奉仕活動を実践します。これが理想とされるロータリーライフです。悩みごとを相談する真の友人こそロータリーの友でなければならず、それを可能にするためには、ロータリーの友情、即ち親睦を更に高めなければなりません。もし、事業不振のため退会を余儀なくされる会員がい

たとすれば、そのクラブにはロータリーの親睦がなかったことを証明することになるのです。職業上の相談はどんなことでもクラブ内の友人に相談でき、どんなことを相談しても、自分のマイナスになって返ってくることは絶対にない。これが可能なクラブのことを、親睦のあるクラブといいます。その前提となるのが一人一業種制度なのです。そしてまた、ロータリー親睦活動 (Fellowship Activities) とは、文字通り親睦の下にロータリアンのつながりを築き、趣味や職業に関連したグループが集まり楽しむ活動です。世界的には、ロータリー親睦活動は、エスペラント語に関心を持つロータリアンが集まったことをきっかけに 1928 年に始まりました。親睦会で飲食したりやゴルフ会に参加することは親睦活動に参加することであって、本来の親睦とは違った次元のものです。もちろん親睦活動がクラブ奉仕の範囲内で、補助的に活動することはとても大切なことです。しかし、親睦活動委員の任務を、親睦会の幹事や同好会の世話役だけにしてはいけません。親睦を深める最適の場所は、毎週一回の定例の例会であり、4つのテストの第3番目にあるように「好意と友情を深めるか」を実行することと、いかにして真の親睦が保たれるような環境を整備することが最大の任務なのです。また、わが宇部 RC も、新入会員の方は親睦委員会に所属して頂いていますが、例会毎に会員相互の親睦を深める活動に従事することによって、一日でも早く先輩の会員方と融和を図ることを目的としています。例会を通じて、ロータリアンがお互いに切磋琢磨し、自己研鑽することで、ロータリーの説く本来の親睦が一層深まって欲しいと思います。

本日は、ロータリーにおける親睦と親睦活動についてお話ししました。